

# 日本学術会議

## 化学委員会・分析化学分科会（第25期・第10回）

### 議事要旨

日時：令和4年8月17日（火）16:00-17:30

場所：オンライン会議

出席者（11名）： 岡本 裕巳、玉田 薫、栄長 泰明、尾嶋 正治、加藤 昌子（副委員長）、  
斎藤 公児、佐藤 縁（幹事）、竹内 孝江（幹事）、谷口 功（委員長）、藤本 俊幸、  
宮崎 あかね

欠席者（0名）

記録：竹内 孝江

#### 配布資料：

資料番号なし 化学委員会分析化学分科会（第25期・第10回）議事次第

資料1 前回議事録（分析化学分科会（第25期・第9回）議事録）

資料2 カーボンニュートラル（ネットゼロ）連絡会議（第2回）

資料3 化学委員会活動報告（7月提出版）

#### 議事

##### 1) 前回分科会の議事録確認について

前回分科会の議事録はメール会議で全委員からすでに承認されており、事務局に提出済みで、学術会議のwebサイトにUPLOADされていることが報告された。

##### 2) 日本学術会議の他分科会の動きについて報告があり、情報を共有した。

（カーボンニュートラル連絡会議・無機化学分科会の国際ガラス年・広報他）

##### 日本学術会議：

第3部の報告が出され、共有した。10月に総会がある。

カーボンニュートラル連絡会議：第2回連絡会開催（6月）。文科省、環境省、経産省の方針説明。長期展望についてコメントがあり、人材育成の重要性を共有した。第2回学術フォーラムを計画中（年度内）。

化学企画分科会：化学系の博士人材の現状と将来的な状況改善に向けた方策についての取りまとめのため、4月から会合開催継続中。11/5にシンポジウム開催予定。

無機化学分科会：国際ガラス年 9/30 シンポジウム開催予定。

研究環境の改善について：内閣府から検討依頼があり、回答が出た（8月）。

分子科学研究所所長招聘会議 公開シンポジウム「日本の人材育成を考える」（2022年 06月 07日開催）において化学系博士人材について議論した。

日本エネルギー学会でシンポジウムを実施した。中高生の懸賞論文、応募が多数あった。分析化学についても中高生に広げる方法を探ることを検討している。

ダイヤモンド電極を用いたギ酸合成のプロジェクトが始まった。

経済安全保障について：情報持ちだし、許可制。チェックできるのか。AI や量子技術について懸念を持っている。具体的作業は不明。

- 3) 本分科会の今後の活動の進め方、学術会議フォーラム開催のテーマについて、以下の意見があった。

中高生に向けた活動が考えられる。教員を巻き込む。

カーボンニュートラルに限らない。夢を語る要素。

分析化学の概念を中高生に理解してもらう。

中学校では実験が無い。

人材育成の観点。博士人材の育成とともに、リスクリングも重要。産業界からも頼りにされるアカデミア。

対面でやりたいので来年度に実施するよう、フォーラムを企画していきたい。再度議論したい。先を展望するテーマで実施したい。

- 4) 今後の分科会での審議予定について

谷口委員長から、来年度開催のフォーラムを企画したいこと、将来展望とリスクリングを含めて検討すること、次回 12月の分科会まではメール会議で議論することが述べられ、閉会した。

以上